



思いは言葉にして

校長 越智 宏明

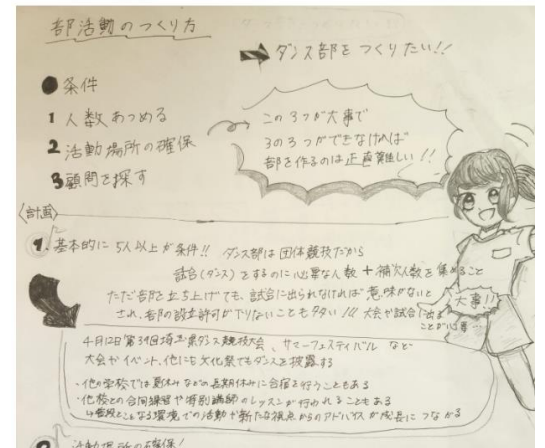
大砂土中学校に着任して1か月。私はこの学校が大好きになりました。その理由は一にも二にも明るく元気な生徒たちと出逢えたことにあります。始業式で「生徒の皆さん、校長室に遊びにきてください」と言ったところ、その日のうちに数名の生徒が訪問してくれました。それ以降は、毎日数十名の生徒が校長室へ来て、おしゃべりをしたり、入り口に掲示しているクイズの答えを言ってくれたりしています。これが私の一日の最大の楽しみであると同時に元気の源ともなっています。

そんな中、1年生の生徒数名が校長室へ来て、「**校長先生、大砂土中学校にダンス部を作ってください!**」と言ってきました。現在、時代の流れもあり、新しい部活動を作るとは非常に難しい状況です。しかし、そうした生徒たちの思い切った行動に私は感心し、「言葉でただ部活動を作りたいというのは簡単だよ。もし本気で作りたのなら、仲間を集めて、何人の生徒たちが参加してどのような活動をしようと考えているのか、具体的なプランを示さないとな」と答えました。生徒たちは、なるほどという表情で戻っていったのですが、なんと次の日、「部活動のつくり方」と題されたA4の計画書2枚を早くも私のところに持ってきたのです！その日のうちにインターネットで調べたり身近な人に聞いたりしてまとめあげたとのこと！今までも新しい部活を作ってほしいと要望してきた生徒は何人もいました。しかしここまで本気で行動を起こしてきた生徒を、私は初めて見ました。同時にこの熱意には、私も校長として本気で応えてあげたいと強く決意しました。実際、どのような形で実現できるのか、それともやはり難しいのか、結果は分かりませんが、とにかく、この生徒たちに私の「全力」を見せてあげたいと思っています。

大砂土中学校では、今年度より、「未来創造プロジェクト」という生徒主体による学校改革プログラムをスタートさせます。制服や校則について、生徒自身が議論し、これからの大砂土中学校の在り方について、生徒自身の意見を基に方向性を決めていく取組です。それにはただ、「自分さえよければいい」という自己中心的な考えではなく、「どうすれば大砂土中学校が生徒みんなにとって幸せだと思える学校になるか」、「これからの大砂土中生が楽しく学校生活を送れるようにするために、今何をすべきか」ということを、生徒一人ひとりが言葉にし、周囲の理解を得た上で行動に移していくことが必要です。中国の文豪魯迅は、「もともと地上には道はない。歩く人が多くなればそれが道になるのだ」と語っています。誰かが最初の一步を踏み出し、後に続く人が増えれば必ずそこに道は拓けるのです。ただ、道の無い場所に最初の一步を踏み出すことは大変に勇気のいることです。ダンス部を作りたいと言ってきた生徒たちの行動が正にそれ。仲間のためになる、地域が喜ぶ、人類の繁栄につながると思ったことはまず言葉に表し、仲間を募る勇気をもってほしいと思います。その勇気こそが未来を創造する起動装置となるはず。そして、大砂土中生にはそれができるとい資質が十分に備わっていると、私は確信しています。



連日校長室には、大勢の生徒が遊びに来てくれます！



生徒たちが作成した部活動計画書